

＜新規就農者の確保又は認定農業者の育成に取り組む事例＞

「ええのお～！」と言われる地域を目指して

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	広島県神石郡神石高原町 広石			
協定面積 13ha	田 (69%)	畑 (31%)	草地 (0%)	採草放牧地
	水稲	野菜	—	—
交付金額 126万円	個人配分		45%	
	共同取組活動 (55%)		10% 58% 17% 5% 10%	
協定参加者	農業者 11人 (認定農業者 2人), 営農組合 1組織 (構成員 11戸)			

2. 取組に至る経緯

・集落の抱える課題

本地域は、神石高原町の中でも農業従事者の平均年齢も高く、特別な高齢化地域である。平成 13 年より、本制度に取り組んできたが、地域の農業従事者の高齢化が進み、小集落の中で役員を担う人材不足や機動力も弱体化し、集落としての方向性が不透明になるとともに協定の維持が困難な事態となっている。

・協定締結までのプロセス

機動力が衰退するなか、農地を保全管理するため、現状の田畑の維持管理に向け、共同防除・共同作業等を行うとともに、農地法面の崩壊を未然に防止するため、集落の担い手を中心に定期的な点検を行う等の確認を行う等協定を締結することとした。

3. 取組の内容

いままで、過疎化による卑屈な心情と現状を逆手に取り、元気あふれる地域として維持するよう「ええのお広石」という組織を立ち上げ、耕作放棄地等を管理・保全してきた。総合的に集落を機能化させるために、第 2 期対策では、集落共同で様々な共同取組活動を行うとともに、効率的な農業を行う担い手を育成し担い手への農地集積化を図ってきた。また、認定農業者の育成を図り、協力体制を強化して、荒廃する里山を保持し、地域を活性化するとともに、省力化・低コスト農業を目指す。



耕作放棄地を活用した共同ソバ刈り



高齢者等の集落歩道地の除雪

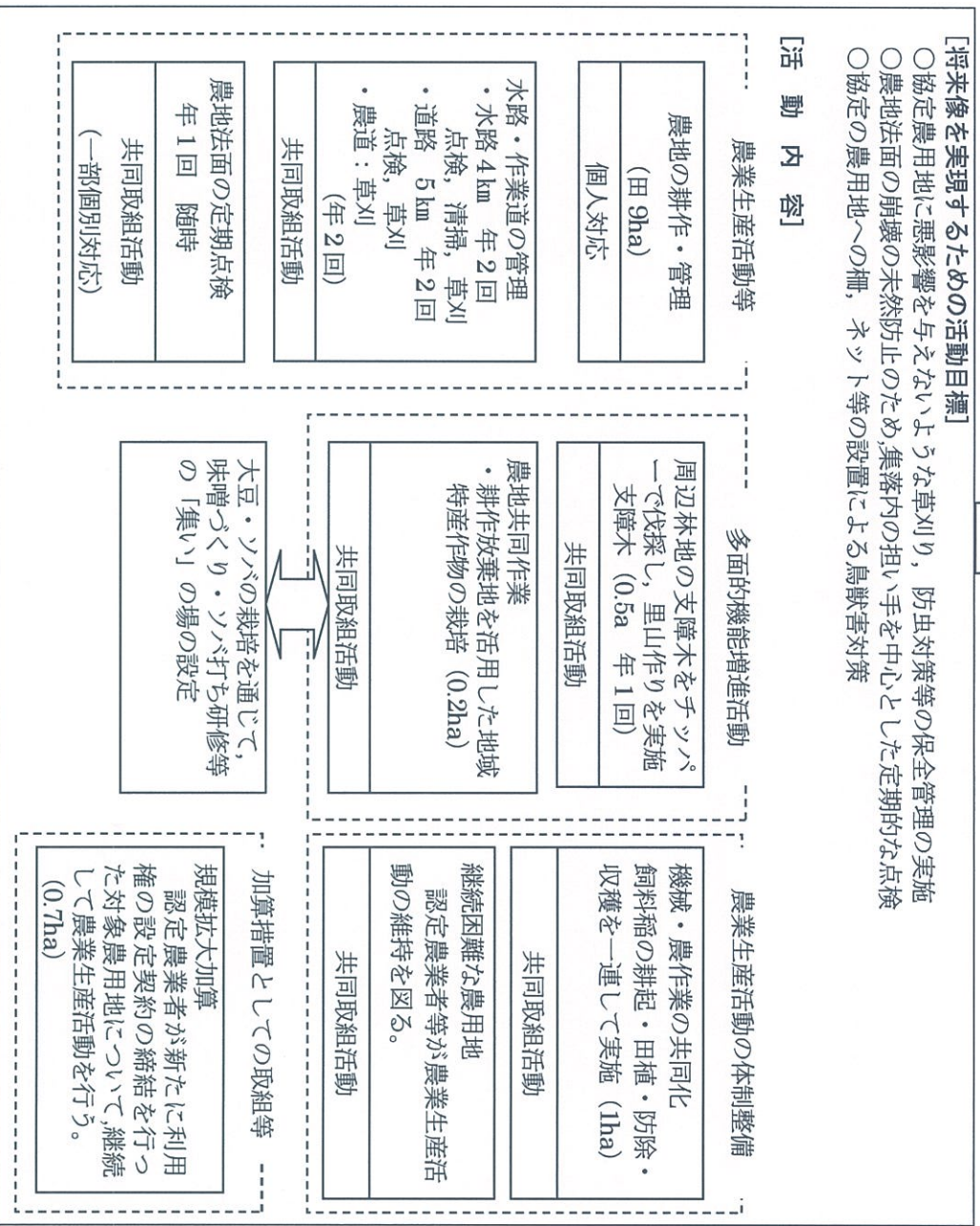
【集落の将来像】

- 地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備の実現
- 認定農業者の育成及び担い手への農地集積 (H22年度 0.7ha 集積)

【将来像を実現するための活動目標】

- 協定農用地に悪影響を与えないような草刈り, 防虫対策等の保全管理の実施
- 農地法面の崩壊の未然防止のため,集落内の担い手を中心とした定期的な点検
- 協定の農用地への柵, ネット等の設置による鳥獣害対策

【活動内容】



4. 今後の課題等

- ・ 次期の集落担い手不足の解消が急務である。
- ・ 集落の今後の営農に係る展望又は維持を考える場合, 他地域や他集団との連携や支援を得る必要があるが, 行政の支援の在り方について明確になる必要がある。
- ・ 地産地消を目指した共同取組の実施の方向性を見いだすことが望まれる。

【平成 22 年度までの主な成果】

- H13 年 認定農業者への農地集積
- H16 年 多面的機能を増進する活動として, ソバとコンモスの作付け, 堆肥共同散布
- H17 年 「ええのお広石」 設立, シンボルとしての水車小屋設置
- H18 年 耕作放棄地を活用した, ソバ・大豆の生産と販売の実施
- H19 年 鳥獣害防止対策 (イノシシ防護柵設置: 集落水田全区)
- H20 年 地域生産活動の補助起点として竹炭窯及び作業場設置起動
- H21 年 除雪機購入による高齢者等の冬季の活動の保障
- H22 年 「里山作り事業」としてチップーの購入による里山整備を実施し, イノシシ被害防止対策を一層強化
- 同年 認定農業者が 1 名増